

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600106		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター防府 グループホームニチイのほほえみ		
所在地	山口県防府市敷山町14-1		
自己評価作成日	平成23年8月8日	評価結果市町受理日	平成24年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほほえみ防府の理念 ・ほほえみ(笑顔)を絶やさずケアを提供する。 ・穏やかに過ごせる環境を提供する。 ・地域と協力し、安心。安全を提供する。ことを信条として入居者おひとりおひとりの心身の状態と個々の生活歴を 尊重したなじみの生活環境作りに配慮し家庭的な雰囲気の下、スタッフと共に調理や洗濯など有する能力に応じ た役割を担ってもらい日常生活を継続できるよう支援いたします。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

知人、友人、親戚などの来訪や友人との手紙のやりとり、電話の支援をされたり、家族の協力を得て墓参りや法事、結婚式への参加など利用者一人ひとりがその人らしく、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続の支援をしておられます。運営推進会議や家族アンケートなどで家族の意見や要望を聞いておられ、食事内容の見直しや家族交流会で一緒に外出を楽しむ機会を増やすなど、意見を運営に反映させサービスの向上に活かしておられます。地域の方たちへ防災訓練への参加や学習会の開催の呼びかけなど、地域への働きかけにも積極的に取り組まれています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	拠点会議の場で地域密着施設の役割説明をし、運営推進会議はニチイのほほえみのフロアにて開催しており、職員は利用者の介助に携わりながら参加している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を共用空間に掲示すると共に、拠点会議や申し送り時に共有に努め、日々のケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお誘いによって、地域の盆踊りや公民館での催しなどに出向くことがある。	自治会に加入し、清掃活動に参加したり、自治会からの案内での夏まつり、公民館活動に参加している。地域ボランティア(歌、踊り等)の訪問や事業所のフリーマーケット開催時にはチラシを配布し地域の人の参加があるなど、日常的に地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には町内会の自治会長、民生委員の参加をお願いし、認知症の施設の役割を知ってもらっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自社の自己評価において、要改善と指摘された項目はただちに改善に取り組み再評価を受けた際、改善が認められるよう努力している。	自己評価は管理者が職員に聞きながら行っている。管理者は職員に外部評価結果を説明し、課題について改善に取り組むよう努めている。	・全職員での評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(偶数月)に開催している。利用者ご家族、地域自治会の方、行政の方の参加要請をし活動状況報告及び意見交換を行っている。	年6回開催し、状況報告、事故報告、外部評価結果の報告等をし、意見交換をしている。	・運営推進会議を活かした取り組みの工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上の疑問は市の担当者に随時質問し、指導を仰いでいる。	高齢障害課と介護申請等についての相談や情報交換をしている。地域包括支援センターとは、困難事例の相談や情報交換などで協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する拠点研修を実施し、スタッフの認識を促すように努めている。拘束の必要性のある利用者に関しては身体拘束委員会を開き「拘束」の可否を検討している。	身体拘束委員会で検討し、年間の研修計画のなかで繰り返し研修して、職員は理解して日々のケアに取り組んでいる。状況によっては施錠することもあるが、見守り体制を整えて、施錠しない工夫に努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点内研修を実施している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している入居者がいるので必要性などは業務の中で理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の見学及び事前説明を実施している。契約書は管理者あるいは介護支援専門員が取り交わしを行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書第17条に明記し、契約時に口頭説明を行っている。また、定期的実施している運営推進会議の場で意見交換、要望などを聞いている。	面会時や運営推進会議で家族の意見や要望を聞いたり、遠方の家族には電話で聞いている。年1回家族アンケートを実施し、食事の見直しや家族交流会としての外出の機会の増加等意見を運営に反映させている。相談、苦情の受付体制、外部機関の明示、苦情処理手続きについて周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月拠点会議を実施しており、スタッフ共通の意見などを聴くように努めている。	月1回の拠点会議で話し合い、行事担当スタッフが職員の意見を聞いて、それらを運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの面談を随時実施し、スタッフ個々の意見吸い上げの場としている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支店レベルでの研修会にはローテーションを組みまんべんなくスタッフが参加できるようシフト調整をしている。	外部研修は職員の段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供し、受講後に復命している。月1回全職員参加の事業所内研修を計画的に実施するほか、新人職員採用時には接遇研修等を法人で行っている。管理者は日々のケアの取組の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡協議会に参加し、ブロック研修などに参加。研修会の立案、計画実施。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や利用施設に赴いたり、施設見学を計画、実施している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や来所持に面談し、本人や家族の要望の聞き取りを行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーとの連携やアセスメントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切にし、一緒に作業を行ったり、出来ることは自分で行える様サポートしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族それぞれの意見、要望を聴き関係調整の役割を果たす。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の行事や誕生会に家族の方へ参加して頂き、冠婚葬祭へも出席できる様支援している。	知人、友人、親戚などの来訪、友人との手紙のやりとりや電話の支援をしている。家族の協力を得て、墓参りや冠婚葬祭等の行事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、リビングでの席に配慮したり、一緒に活動する機会を作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合はお見舞いに出かけたり、必要な相談には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者の言葉に耳を傾け希望や意向を汲み取るように努め、家族とも相談している。	生活の中の本人の言葉を介護記録に記録し、担当職員が日常生活支援ノートに記載している。申し送りノートに記入したことは、申し送り時に職員間で共有して、介護支援専門員に報告をして希望の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人から話を聴き、センター方式によるアセスメントにて分析している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	穏やかに過せる、安心できる居場所作りに努めその中で本人の力が発揮できるようなケアを行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ホーム会議で担当学会議を行い、支援目標の検討やケアの統一等、スタッフ間で情報共有を図っている。	介護認定の更新までを長期目標とし、6ヶ月毎にモニタリングを行い、短期目標を掲げている。全職員で担当学会議時に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活支援シートを作成し、スタッフ間での共通の認識でケアにあたり、問題点は申し送りや会議で話し合っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護、訪問マッサージ、出張散髪の利用や地域ボランティアも受け入れている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ権利擁護事業や後見人制度を利用し入居者の生活を支えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による定期往診(1回/2週間)を入居前のかかりつけ医への受診介助を行っている。	事業所の協力医による2週間に1回の往診があり、本人や家族の希望するかかりつけ医への受診は職員が同行して支援をしている。家族が同行する場合は状況報告書を渡し、受診結果は情報共有するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来所した際、健康状態に関する情報提供を行い、相談し医療機関へつなげるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院施設へ介護サマリーを提供し、退院時は病院よりサマリーを貰っている。入院中は主治医、病棟師長、ソーシャルワーカー、家族と相談を密にし退院後の生活に支障ないよう対応している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の処遇を家族と話し合っておき、提携医や訪問看護師の協力体制を整えるなど相互の調整を図るように配慮する。	重度化した場合の指針を作成して入居時に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、協力医や訪問看護師、職員と話し合い、指針を共有して、家族の希望にそった支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、行方不明に関するマニュアルはいつでも閲覧可能な場所に置いている。また研修のテーマとしてスタッフ間で検討している。事故(転倒や誤薬)など発生時は再発防止のためミーティングや個別指導実施している	マニュアルを作成し、事故防止や再発防止の研修を毎年1回実施している。救急救命法は年1回、新規職員が受講している。ヒヤリハットや事故報告については改善策を検討し、ミーティング時に指導、共有するように努めている。全職員が応急手当、初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を置き、避難訓練を2回/年 実施、訓練時は地域への周知も行い訓練参加を促す。	避難訓練は運営推進会議をとおして、地域住民や家族に周知している。夜間想定を含め、年2回消防署の指導のもと、避難訓練、消火器の使用訓練を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内での研修で、プライバシーや接遇について学び、日々の言葉かけや対応に留意している。	研修計画に沿って、毎年研修会を実施し、職員は理解して日々にケアに取り組んでいる。言葉かけや対応に不適切と思われることがあれば、管理者がその都度指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を推測し、選択肢を示したり自身が決め易い様 助言する。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの食事、睡眠、排泄の時間、生活習慣、生活リズムの把握に努め、現有能力を発揮できる場面を提供できるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容(整髪・化粧)など、これまでの習慣が維持できるよう環境を整えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に決めたり、旬の食材を取り入れた食事作りを心がけている。下ごしらえや盛り付け、食後の片付けは入居者にも参加してもらっている。	献立は栄養士のチェックを受け、三食とも事業所で調理している。利用者は豆のさやとりなどの下ごしらえや盛り付け、食器拭きなどを職員と一緒にしている。利用者一人ひとりの状態に応じて、ミキサー食、刻み食、メニュー変更の対応もしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の指導を受け、1500kcal/日で提供し、水分摂取量は個々にチェックしている。入居者の嗜好についても配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとり見守り又は介助で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ本人の意思表示と能力を考慮し介助を行っている。 排泄の間隔を把握し、トイレ誘導を実施している。	排泄チェック表に記録し、排泄パターンを把握をして、さりげない声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者各人の食物摂取量や内服薬の腸への影響を把握し、スタッフ間で情報を共有し調整を図っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は11時～16時の間で行っている。入居者の希望や体調を確認し、個浴で介助を行っている。	基本的には週3回11時から16時の間で一人ひとりに応じた入浴支援をしている。清拭、シャワー浴の支援もあり、入浴を嫌がる場合は、声かけの工夫や職員交代などの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状態・体調を把握し、午睡を促したり 昼夜逆転を起こさない様 生活リズムを整える。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに保管し処方薬一覧表で確認できる様にしている。薬剤師による薬の管理を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな事を生活の中で行える場面作りを行い、楽しい時間を過ごせるよう支援している。	ぬり絵、折り紙、下半身体操、おやつ作り、食器拭き、テーブル拭きなどの活躍できる場面づくりや、地域の盆踊りや家族と一緒に紅葉狩り、七夕、クリスマス会等の季節の行事など、楽しみ事や気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出援助は計画を立て実施している。 家族との外出は積極的に行っている。	地域の盆踊りに参加したり、家族と一緒に花見、紅葉狩り、外食等外出の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームの金庫にて保管管理している。買い物に出かける際、お金を使う機会を作っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚、知人の面会や手紙のやり取りは自由にできる。投函はスタッフが行う。誕生日のプレゼントや宅配が届いた際には電話をかけたり、遠方の家族へは行事参加時の写真や本人のメッセージを送っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備のため定時、随時の掃除やシーツ交換を実施。換気も行い空調に努めている。季節に合わせた壁飾りの貼り絵を利用者と共に作成している。	室内は明るく、台所からは共用空間が見渡せて、調理や茶碗を洗いながら会話が弾んだり、調理の音やにおいがするなど生活感を感じることができる。壁に飾ってある折り紙の朝顔に季節が感じられたり、窓からは中学校の校庭が見られるなど、居心地良く過ごされる空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は40.87平方mと狭いため独りになれる空間の確保は難しいため、希望ある場合は居室で過してもらい随時居室を訪問している。入居者それぞれお気に入りの場所があるが人間関係によっては席を替えるなど配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家庭で使い慣れた小タンスなどを持ち込んでもらい、できるだけ早期に環境に慣れてもらうように配慮している。	テレビ、タンス、椅子、時計、位牌、花、写真、作品などの使い慣れた物やを持ち込み、本人が落ち着いてゆったりと過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、廊下、食堂、脱衣所、浴室には手すりを設置し日常生活動作ができるだけ自力で行えるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター防府 ニチイのほほえみ

作成日：平成 24年 7月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号		目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	自己評価時には職員への聞き取りを実施しているが外部評価結果を説明するに留めており、新たな取り組みの指標としていない	全職員での評価の取り組み	外部評価の結果を拠点会議や申し送り時に結果公表の閲覧をすすめて、自拠点の評価を把握 その後の介護に活かすよう意識する	1ヵ月
2	5	H23年度は内容的には、時期に合わせた研修会(夏場は脱水や秋口にはすずめ蜂)を実施するようにしたが、5回/年の開催にとどまり、今後の開催についての課題を残した	運営推進鍵を活かした取り組みの工夫	運営推進会議議事録のファイルは以前から実施しているので、拠点会議や朝の申し送り時に運営推進会議での議事内容を報告する	1ヵ月
3	35	事故防止や事故発生時のマニュアルは整備されているが、全スタッフが初期対応の実践力を身につけるには至っていない	応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	職域内事故発生時の対応に関する一覧を作成し、新人職員でも最低限の初期対応が可能なように別冊の指導書を作成済み	1ヵ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。